

■ 大学院 経営学研究科 経営学専攻

<p>教育研究上の目的</p>
<p>大学院学則第2条（目的） 本大学に設置する大学院（以下「本大学院」という。）は、課程の目的に応じ、学理及びその応用を教授・研究し、学術の深奥を究めて、人類社会の発展に貢献しうる人材を養成するとともに文化の進展に寄与することを目的とする。</p>
<p>大学院学則第6条の2（研究科及び専攻） 修士課程においては、広い視野に立って精深な学識を授け、経営学における研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うこと、博士後期課程においては、経営学の分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と、その基礎となる学識とを養成することを目的とする。</p>
<p>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p>
<p>【修士課程】 経営学研究科（修士課程）では、学則第6条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「修士（経営学）」の学位を授与します。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学（会計学・税法含む）に関する高度な専門性を有する職業に必要な知識を修得している。 2. 経営学に関する、精深で高度な専門知識を有している。 3. 経済・社会や企業経営の変化に対応するため、国内外の文献等をもとに自ら課題発見し、分析・解決することができる。 4. 講義や自らの研究を通して豊かな国際感覚を備え、グローバルな視点で研究に取り組むことができる。
<p>【博士後期課程】 経営学研究科（博士後期課程）では、学則第6条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「博士（経営学）」の学位を授与します。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学の分野において、研究者として独創的な研究（着眼点、過去の研究事例を把握していることが前提）を自立して遂行できる能力として必要な知識を修得している。 2. 日々の研究や学会での発表などを通して知識基盤社会を多様に支える知的教養を備え、高度な専門性を有している。
<p>教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）</p>
<p>【修士課程】 経営学研究科（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。</p>
<p>（教育内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学における経営学に関する、精深で高度な専門知識を修得するため、各専門科目の特殊講義を配置する。 2. 経営学における経済・社会や企業経営の変化に対応して自ら課題発見し、分析・解決できるように、指導教員の専門科目を必修科目として配置する。 3. 学生が修士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように「演習」を配置し、きめ細やかな研究指導体制を確立する。 4. 経営学コースでは、研究者養成と知識基盤社会を多様に支える知的教養ある人材の育成、会計学・税法コースでは高度職業人育成を目的に、上記1～3に取り組む。
<p>（教育方法）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義科目では、経営学に関する精深で高度な専門知識を身につけることを目的とし、アクティブ・ラーニングを採用する。 2. 演習科目では、自ら課題を発見し、それを論理的に分析・解決する能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。 3. 指導教授が、きめ細やかな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。
<p>（学修成果の評価） 経営学研究科（修士課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、修士論文の成果評価割合等により行います。 2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布により行います。
<p>【博士後期課程】 経営学研究科（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。</p>
<p>（教育内容）</p>

愛知大学 3つのポリシー（2024年度以降）

<p>1. 経営学におけるより一層精深で高度な専門知識を修得するため、各専門科目の特殊研究を配置する。</p> <p>2. 経営学における経済・社会や企業経営の変化に対応して自ら課題を発見し、それを論理的に集約し、成果を公表できる能力を修得できるように、指導教員の専門科目を必修科目として配置する。</p> <p>3. 2年次に「研究演習」を配置し学位論文執筆に向けたきめ細やかな研究指導を行う。</p>
<p>（教育方法）</p> <p>1. 講義科目では、経営学に関する、より一層精深で高度な専門知識を身につけることを目的とし、アクティブ・ラーニングを採用する。</p> <p>2. 演習科目では、経済・社会や企業経営の変化に対応して自ら課題を発見し、それを論理的に集約し、成果を公表できる能力を向上させるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた演習を採用する。</p> <p>3. 指導教授が、きめ細やかな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。</p> <p>4. 論文作成支援のため、提出に先立ち論文指導委員会を設置し指導を行う。</p>
<p>（学修成果の評価）</p> <p>経営学研究科（博士後期課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。</p> <p>1. 教育課程（メソ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、博士論文の成果評価割合等により行います。</p> <p>2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行います。</p>
<p>入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）</p>
<p>【修士課程】</p> <p>経営学研究科（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。</p>
<p>1. 求める学生像</p> <p>(1) 本研究科で学ぶために必要な学力を有し、経営学に深い関心を持ち、主体的に研究する意欲を持っている人。</p> <p>(2) 経営学に関する専門知識を身につけ高度専門職業人をめざす人。</p> <p>(3) 社会で身につけた実務経験を理論として再構築しようとする人、あるいは既に有している知識により高度な専門知識を付加しようとする人。</p>
<p>2. 入学前までに修得すべき能力</p> <p>(1) 情報収集及び要約する力。</p> <p>(2) 論理的批判力。</p> <p>(3) 自分が研究する分野の基礎的知識。</p> <p>(4) 外国文献を読み解く語学力。</p> <p>(5) 調査・研究を行う上で、第三者とのコミュニケーション能力。</p>
<p>3. 選抜方法</p> <p>(1) 一般・外国人留学生入学試験 外国語、専門科目、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。</p> <p>(2) 社会人特別入学試験 外国語、専門科目、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。</p> <p>(3) 推薦入学試験 外国語及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。</p>
<p>【博士後期課程】</p> <p>経営学研究科（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。</p>
<p>1. 求める学生像</p> <p>(1) 経営学の分野において、研究者として自立して研究活動を行おうとする人。</p> <p>(2) 経営学の分野において、高度に専門的な職業に従事して研究活動を行おうとする人。</p>
<p>2. 入学前までに修得すべき能力</p> <p>(1) 自分の研究分野の専門知識。</p> <p>(2) 外国文献を読み解く語学力。</p> <p>(3) 情報収集及び要約し、かつ、課題発見できる力。</p>
<p>3. 選抜方法</p> <p>(1) 一般・外国人留学生入学試験 外国語、専門科目、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。</p> <p>(2) 社会人特別入学試験 外国語、専門科目、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。</p>

愛知大学 3つのポリシー（2024年度以降）

- (3) 推薦入学試験
外国語及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。